

若手研究者の奨励発表

学長奨励賞を受賞した大阪市立大学の若手研究者4名が研究発表を行います。



佐藤絵理子 講師(工学研究科)
大阪市立大学大学院工学研究科後期博士課程
生物系専攻修了、博士(工学)
高分子学会、日本接着学会、日本化学会、日本ゴム協会

反応性アクリル系ポリマーの精密合成と 高性能易解体性接着材料への応用

易解体性接着材料とは、使用時の優れた接着特性とオンデマンドな解体性を併せ持つ接着・粘着材料であり、省資源や生産性向上の観点から既存エネルギーの有効利用に貢献可能である。本発表では、外部刺激による反応性アクリル系ポリマーの物性変化を利用する新規易解体性接着材料の設計戦略を述べ、解体の二段階保護による安定性向上、モルフォロジー制御による刺激応答速度の向上、酸素耐性のある重合系の開発など実用化に向けた取り組みを紹介する。



夜久圭介(生活科学研究科D3)
大阪市立大学大学院生活科学研究科前期博士課程修了
修士(生活科学)
日本生化学会、日本栄養・食糧学会

ナンキョウ(タイショウガ)から単離された 1'-acetoxychavicol acetateの神経変性疾患 の予防効果

神経変性疾患は、脳内の様々な部位で神経細胞が死滅することによって生じる進行性の疾患であり、加齢に伴って発症リスクが上昇する。高齢化の進む本邦においてこれら神経変性疾患の発症を予防することは非常に重要である。本シンポジウムでは食による疾患予防の観点から、タイで様々な料理に用いられるタイショウガ(ナンキョウ)の根茎に含まれている1'-acetoxychavicol acetateが神経保護におよぼす影響について発表する。



米澤剛准教授(創造都市研究科)
大阪市立大学大学院理学研究科後期博士課程
生物地球系専攻(単位取得退学)、博士(理学)
日本情報地質学会、地理情報システム学会等

オープンソースを用いたベトナム ・ハノイの時空間都市変容と持続可能性

ベトナムの首都ハノイは、急速な都市化が進む東南アジアの中でも成長著しい都市の一つであるが、その一方で深刻な都市問題が年々顕著化している。これらの問題解決には、都市を地下から地上までの3次元空間としてとらえ、さまざまな分野で利用可能な基盤データを構築することが有効である。本研究発表では、オープンソースを用いたハノイ都市空間の3次元モデル構築方法を紹介し、そこから見えてくる都市変容等の研究成果を発表する。



岡崎和伸准教授
(都市健康・スポーツ研究センター)
信州大学大学院医学研究科修了、博士(医学)
日本体力医学会、日本生理学会、日本体育学会、大
阪体育学会、日本運動生理学会、ランニング学会

高齢者の熱中症予防のための 具体的方法の開発

毎年夏に問題となる熱中症。特に、熱中症による死亡数の約7割を65歳以上の高齢者が占めており、その予防対策は急務である。本発表では、暑熱環境下において体温が上昇する際に、汗などによって体熱を放散する能力(体温調節機能)が、加齢とともに著しく低下していること、つまり、高齢者が暑さに弱いことを提示し、高齢者の体温調節能を向上する、つまり、高齢者が暑さに強くなるための具体的方策として、運動直後の蛋白質・糖質の摂取を取り入れた持続性トレーニングの有効性について発表する。